

A 1 病棟 (重心・筋ジス病棟)

A 1 病棟は、筋ジストロフィーと重症心身障がい児(者)病棟です。筋ジストロフィーの患者さまには、進行性の筋力低下による運動障害、呼吸不全、摂食障害、心不全などの症状があります。重度心身障がい児(者)の患者さまは、肢体不自由と知的障害を重複しており、てんかん発作等の症状も見られます。日常生活のほとんどにおいて介助が必要です。

人工呼吸器装着患者さまが多く、排痰援助、呼吸管理、栄養管理、内服管理などを行っています。長良特別支援学校と隣接しており、登校・就学支援も行っています。また、筋ジストロフィー患者さまは、パソコンを利用した余暇活動や社会交流にも参画しているため、それらを円滑に行うための支援も行っています。病棟では、患者さまの病状管理だけでなく生活を豊かにするため、医師・看護師・療養介助員・看護助手・指導室・リハビリ・栄養士・薬剤師など多職種と連携して患者さまのサポートをしています。



A 2 病棟 (重心病棟)

A 2 病棟は重症心身障がい児(者)病棟です。患者さまは日常生活の大半に援助を必要としています。コミュニケーションが難しい場面もありますが、それぞれの患者さまの個性を理解して一つ一つのかかわりを大切にしています。私たちは、患者さまの QOL の向上を目指した医療・看護・介護・療育を提供しています。そのために医師、看護師、療養介助員、児童指導員、保育士、リハビリ職員と協働しています。そして、患者さまとスタッフの笑顔があふれるあたたかな看護を実践しています。



笑顔があふれるあたたかな看護を実践しています。

A 3 病棟 (重心病棟)

A 3 病棟は、重症心身障がい児(者)病棟であり、生命の維持・成長発達の促進・退行の予防・残存機能の維持・生活の質の向上を目指し、医師・看護師・療養介助員・児童指導員・保育士などがチームで患者さまを支援しています。患者さまは医療行為が必要な重度の障がいをもっているため、日常生活はほぼ全介助です。看護は呼吸器・循環器・消化器疾患だけ

でなく、人工肛門や腎瘻カテーテルの管理、血糖値のコントロールなど多岐に渡ります。また、呼吸器管理を必要とするショートステイも受け入れており、在宅障がい者さまの支援も行っています。看護師は、患者さまの最も身近な存在として、療育従事者と協力し、専門性の高い看護を提供しています。



中央2階病棟（呼吸器外科・脳神経外科・呼吸器内科・循環器内科）

中央2階病棟では、呼吸器内科・外科、脳神経外科、循環器内科を中心に急性期および慢性期、終末期に至るまで、幅広く治療が行われています。入院患者



者さまの主な疾患は肺炎・肺がん・心不全・脳血管疾患があげられます。様々な病期の患者さまがみえ、入退院を繰り返すことも多いため、手術前後のケアから、早期リハビリ・退院調整に向けた介入に力を入れています。医師を始め、院内の各部門と連携しながら、患者さまにとって最も良い状態で退院できるように努めています。



やすらぎ病棟（緩和ケア病棟）

やすらぎ病棟は、がん終末期の方が入院される緩和ケア病棟です。

緩和ケア外来も担当し、入院前から顔の見える関係性が築けるよう取り組んでいます。がんによる身体のみならず、心のつらさにも焦点をあて、できる限りその人らしく生活できるよう支援しています。そのために、多職種カンファレンスを開催し、患者さま・ご家族さまと十分な話し合いを重ね、ケアの方針を考えています。また、大切な人

ががんを患うことは、ご家族さまにとってもつらい体験であるため、ご家族さまのつらさにも寄り添い支えられるよう支援しています。緩和ケア病棟は患者さま・ご家族さまにとって『第2の我が家』です。季節の移り変わりを感じていただけるようイベントを催した、患者さまの記念日をご家族さまと共有して頂けるようお手伝いしています。



中央5階病棟（呼吸器内科、小児科、小児外科、神経小児科）

中央5階病棟は呼吸器内科、小児科、小児外科、神経小児科の病棟です。呼吸器内科には COPD（慢性閉塞性呼吸器疾患）、肺がん、肺炎などの患者さまが入院し、内視鏡検査による診断をはじめ、がん患者さまの化学療法や放射線治療も行っています。小児科では、肺炎や喘息性気管支炎などの内科疾患、鼠径ヘルニアなどの外科疾患の患者さまが入院

しています。又、重症心身障がいの患者さまのレスパイト入院や短期入所の受け入れも行っています。小児から成人まで幅広い年齢層の患者さまを対象に、個々の発達段階や病状に合わせた看護が提供できるようにスタッフ全員で協力しています。



中央7階病棟（呼吸器内科、循環器内科、脳神経外科、小児科、小児外科・結核）

中央7階病棟には肺結核・COVID-19など感染症に罹患した患者さまが入院しています。また、呼吸器内科、循環器内科、脳神経外科、小児科、小児外科の幅広い診療科に対応した混合病棟です。

肺結核は抗結核薬の確実な服用が必要なため入院時より病棟看護師、地域連携室スタッフ、薬剤師が連携して患者さまの退院後の生活を考えながら支援

しています。結核の患者さまは入院が長期になるため、共有スペースには季節を感じられるような飾り付けをしたり、ラジオ体操や歩行リハビリなどを行うことで、生活リズムが単調にならないよう療養環境を整えています。また、感染症以外の診療科では、0歳から100歳と年齢の幅が広く、急性期、回復期、終末期において様々な患者さまが入院しています。そのため、患者さまの個々の状態に合わせた看護が提供できるようにスタッフ全員で協力して日々の看護を行っています。

しています。結核の患者さまは入院が長期になるため、共有スペースには季節を感じられるような飾り付けをしたり、ラジオ体操や歩行リハビリなどを行うことで、生活リズムが単調にならないよう療養環境を整えています。また、感染症以外の診療科では、0歳から100歳と年齢の幅が広く、急性期、回復期、終末期において様々な患者さまが入院しています。そのため、患者さまの個々の状態に合わせた看護が提供できるようにスタッフ全員で協力して日々の看護を行っています。



中央手術室

中央手術室には陰圧変換型手術室1室を含む3つの手術室があり、呼吸器外科・小児外科・形成外科・脳神経外科の手術を行っています。呼吸器外科では肺がん・気胸・膿胸の胸腔鏡下手術、小児外科では鼠径ヘルニア手術、脳神経外科では慢性硬膜下血腫除去術等行っています。手術室看護師は手術室以外でも検査介助等の業務に就いており、内視鏡室では気管支鏡検査・消化管内視鏡検査、血管撮影室では気管支動脈塞栓術・CVポート造設術・ペースメーカー電池交換等の介助を行っています。また、CT・MRI検査室では冠動脈CT造影検査のほか各種造影検査の介助も行っています。

手術室看護師は手術を受ける患者さまに対し安全・安心な看護を提供するために、手術に対する援助だけでなく手術を受ける前から受けた後までを看ています。手術前訪問ではパンフレットによる手術当日の流れなどの説明を行い、患者さま・ご家族さまが少しでも安全・安楽に、そして不安が軽減できるようにアプローチしています。4歳以上12歳未満の小児にはプレパレーションを導入し、「手術室探検ツアー」を通して患児が前向きに手術に臨めるよう支援しています。また、手術後にも病室を訪問し、術後の経過を確認させていただいています。検査においても、処置前後の対応や介助などを丁寧に行うことで、患者さまに安心して検査・治療を受けてもらえるよう看護を行っています。



外来

外来は11の診療科で構成され患者層は乳児から90歳以上の高齢者まで幅広い年齢層の診察を行っています。診察介助や検査介助に関わる時は、当該患者さまの背景を捉え、個別性を踏まえたケアを提供できるように意識的に取り組んでいます。肺癌を対象とした外来化学療法では、多職種がカンファレンスに参加し患者ケアの充実を図っています。心臓血管外科では心臓リハビリテーションに対するモチベーションを維持してもらうための関わりを大切にしています。また、全ての診療科において、継続的な医療、看護が提供できるよう病棟との連携、診療科間の連携を重視し外来看護を行っています。



心臓血管外科では心臓リハビリテーションに対するモチベーションを維持してもらうための関わりを大切にしています。また、全ての診療科において、継続的な医療、看護が提供できるよう病棟との連携、診療科間の連携を重視し外来看護を行っています。